



八中だより



第3号

令和8年5月1日

府中市立

府中第八中学校



〈在籍生徒数〉 一学年231名、二学年249名、三学年218名
 全校生徒数698名
 〈学校住所・電話番号〉
 〒182-0035 府中市四谷一丁目二八二七
 電話 〇四二(三六四)一八八一
 ★生徒の皆さんは、
 学校だより(英語版)をぜひ、ご覧ください。英語の学習に役立ちます。

『府中市の伝統と文化：くらやみ祭』(全校朝会の話の一部)

校長 高汐 康浩

先日の昼休みに、何人かの生徒の皆さんに『府中市の伝統や文化といったら何を思い浮かべますか?』というインタビューを試みた。時期的な影響もあるのか、ほとんどの生徒が『くらやみ祭』と答えた。少数ではあるが、『小松菜』、『お正月のどんど焼き』という答えもあった。

「子ども神輿(みこし)が始まるよー、お菓子とアイスをもらえるよー!」(ドン、ドン「太鼓の音」)リズムカルで独特のメロディーにこの言葉を載せて神輿(はんでん)羽織った中学生たちが街を練り歩く、これはくらやみ祭の恒例だ。この合図とお菓子とアイスの誘惑で街の小学生たちが集まって子ども神輿の渡御(ときよ)神輿が街を回る(こと)が始まる。実は、私は、小学生の頃、この合図を聞くととても憂鬱(ゆううつ)になったのだった。なぜ、憂鬱になるのか? 私の祖父は大のお祭り好きで、くらやみ祭が始まると、京所(きょうじょ)宮町二丁目、三丁目あたり(古い地名)の会所(かいしよ)祭の関係者の集会所)に出ずっぱりになる。当然、お祭り好きなので、孫の私には神輿を担ぐように強く勧める。小学校低学年の頃の私の身体は、とてもやせていて、しかも、身長は比較的高かった。ひよろつとした体型だ。当然、体力はなかった。神輿を担ぐことは抵抗はさほどなかった。お菓子とアイスもほしかった。でも、深刻で現実的な問題があったのだ。

神輿は大人数で担ぐ。担ぎ棒を肩に乗せて「ほいっさ、ほいっさ」(くらやみ祭では「わっしよい」ではない)と掛け声をかけながら上下左右に揺らしながら担ぐ。私にとってはこれが問題だった。背が高いために神輿の重さやその衝撃が直(じか)に肩にのしかかるのだ。腰をかかめながら、担いでもみたがこの方法も足に負担がかかりとてもつらい。私にとっての神輿担ぎは苦痛でしかなかった。結局、その後は子ども神輿を担がなくなり、くらやみ祭ではもっぱら山車(だし)を引っ張ったり、太鼓をたたいたりするだけになった。中学生になってからは、ボランティアで祭の警備などをするようになった。



さて、なぜ『くらやみ祭』というネーミングなのか考えたことがあるだろうか。まずは、神輿とは何かについて確認しよう。神輿の「神」は神様のことである。「輿」とは、人が担いで運ぶ乗り物のことをいう。つまり、神様が乗る乗り物であると捉えられる。そして、神様はとも尊い存在なので人の目に触れないようにするために御輿を真夜中に担ぐ必要があった。このことから『くらやみ祭』という名称になったのだ。私の祖父からは、昔は真夜中の真暗闇に神輿を担いでいたと聞いた。でも、暗いために大けがをする人やトラブルなどが多かったそう。現在は、五月五日の午後六時から神社からお旅所(たびしよ)まで、六日の午前四時からお旅所から神社まで、神輿の渡御が行われる。一之宮から六之宮、御本社(ごほんしや)、御霊宮(ごりようぐう)・ごりようのみや)の八基の神輿と大きな太鼓六基が往復する。担ぎ手たちは頭には烏帽子(えぼし)をかぶり、白丁(はくちよう)という独特な衣装を纏う。毎年、くらやみ祭にはおよそ八万人の人々が集まる。くらやみ祭を運営するのは大國魂神社であるが、市内中心部の四力町(しかちよう)と呼ばれる人々が運営を担う。その他、講中(こうじゅう)とよばれる府中市外の多摩地域や神奈川県、埼玉県から集まった人々も運営に携わる。このように多くの人々によって文化や伝統が守り継がれ、語り継がれているのである。

◆◆くらやみ祭特別展示開催中!◆◆
 本年も五月六日まで、ふるさと府中歴史館で開催いたします。伝統と文化を学ぶ絶好の機会ですので、ぜひ、ご覧ください! (作品の掲載については作者(綾部氏)の承諾をいただいています)

三之宮の太鼓



お旅所

綾部氏の作品



お知らせ重要

Topics

水の事故に注意!

★**山や沼には河童(かっぱ)がいる!?**★

その昔、プールがなかった頃、たくさんの子供たちが多摩川などの河川で水浴びや水泳をしていました。大人たちは、昔からの言い伝えて、「渦巻きがあるところには河童がいて、子供が来ると河童はいくらも出てきて子供の足をつかんで渦の中に引き込もうとするぞ」とか、「白波がたつていて子供が溺れる場所では河童が身体をつかんで水の中に引き込もうとするぞ」などの話をしながら、子供たちに注意を与えていました。実は、これらの話は科学的に正しいといえるのです。渦の場所では水は下方に水流を作っているし、白く泡が立っているところでは浮力は働かないため身体は自然に沈んでいきます。ですから、とても危険な場所といえるのです。流水のはたらきは小学校の理科で、浮力については中学校の理科で学習します。学校での学習は安全な行動に活かすことができるのです。



生活委員会の呼びかけポスター

◆**けが防止の注意喚起**◆
 例年、四月第三週から五月にかけて中学生の学校内外でのケガが増加することが日本スポーツ振興センターのデータからわかります。生徒への声掛けによる意識付けでケガや事故の件数が減少することも明らかになっていきます。生徒朝会では、高野生徒指導主任が活動を起す前には一人一人が「ケガをしない」「事故に遭わない」という強い意識をもつよう注意喚起をしました。ご家庭でも、登校時、外出時にお子さんへのお声掛けをおすすめします。

◆**府中PFSの皆さんが**
 緑のカーテンの準備をしてくださりました!◆
 府中PFSは青少年健全育成を最重要課題として活動している府中市で事業を営む経営者の皆さんによる団体です。ゴーヤカーテンに生長するのを楽しみます。

思春期は、心身ともに大きく成長する時期だからこそ、悩みをもつことがあります。悩みを抱えてしまっているときに、相談できる相談窓口はたくさんありますので、「♡♡安心♡♡」して「♡♡一人でも悩まず、相談しよう♡♡」と「保護者向け相談窓口」や「TOKYOほっとメッセージチャンネル」を紹介していますので、活用してください。下の二次元コードから、またはURLをクリックすることでアクセスできます。



<https://www.fuchu-tokyo.ed.jp/fuchu08c/02gaiyou/15108533456459d8e4a01a420230509142348.html>
<https://ijime.metro.tokyo.lg.jp/message/>

発見 対話 授業のようす 決定 表現

府中市立学校では、教科の授業を中心に全ての教育活動において、「発見すること」「対話すること」「決定すること」「表現すること」を生徒のさまざまな資質・能力を育成するために重視する4つの視点としています。「授業のようす」コーナーでは府中八中での4つの視点を重視した授業等の取組をお知らせしていきます。学校公開等でぜひ、これら4つの視点をキーワードにしてご参観ください。

★ 四月二十五日の二年生の理科(大崎教諭)の授業では、物質の変化について化学的に説明するための意見交換(対話)が活発に行われました。特に司会者等を決める指示はありませんでしたが、すすんで進行役を行う(決定)など主体性を十分に発揮できていました。全体での発表(表現)では、自分の考えをとてもしっかりやすく発表することができました。



生命(いのち)の安全教育 活躍する八中生

【敬称略】
 ☆府中消防少年団卒入団式★
 四月二十六日に府中消防署での演技披露では、竹田心春隊長のリーダーシップで見事な演技を披露
 二年 竹田心春(隊長) 一年 竹田閑紅



- ★五月の主な予定★
- 九日(土) 土曜授業(学校公開)・部活動保護者会
- 十一日(月) 教育実習開始
- 二二日(金) 第五十三回体育祭
- 二九日(金) 三〇日(土) ふれあい自然教室
- 五月の生活目標 □
- ・お互いを理解し合い、友情を育もう

